女子美東5年ぶりV

県春季中学ハンド 男子神森4連覇

美東―仲西　前半、右サイドを切り込みシュートを決める美東の名嘉陽菜＝30日、県総合運動公園体育館（大城直也撮影）

ハンドボールの第46回県中学校春季選手権大会の最終日は30日、沖縄市の県総合運動公園体育館で男女決勝まで行い、女子は美東が23―16で仲西を下し、5年ぶり2度目の頂点に立った。

男子は神森が37―24で仲西を破り、4年連続16度目の優勝を果たした。

【男子】

▽準決勝

神森 34（19―6、15―8）14 宮里

仲西 26（15―9、11―15）24 浦添

▽第3シード決定戦

浦添 28（14―12、14―11）23 宮里

▽決勝

神森 37（21―11、16―13）24 仲西

【女子】

▽準決勝

美東 25（12―6、13―11）17 浦添

仲西 31（18―6、13―10）16 東風平

▽第3シード決定戦

東風平 21（6―7、15―10）17 浦添

▽決勝

美東 23（14―8、9―8）16 仲西

2年名嘉、攻守で輝き

美東がリベンジ

ヒロイン

昨年の同カードの決勝で29点を奪われて敗れた美東が、堅守で仲西を16点に抑えて5年ぶりの頂点をつかみ取った。2年生の名嘉陽菜が攻撃では16ゼンから繰り出すロングシュートで相手ゴールを脅かし、守備では枝を張り、高い壁となり立ちふさがって攻守に活躍した。「守備では打たせるコースを限定させ、セーブしやすいし、攻撃でも入り始めると止まらない」（GKの比嘉楓主将）と仲間からの信頼が厚い名嘉は「強気で自分から攻める意識が持てていた」と振り返る。

前半から守備が好調だった。横一線守備でしっかり固めると守護神の比嘉が好セーブを連発。攻撃ではエース・金城菜々子が自身もシュートを決めながら、相手守備の間を縫うようなパスから名嘉や西田ゆいらが得点を決めた。

しかし次第に攻撃が単調になり、美東の得点が止まり始めた。仲西はポストを使って美東守備を崩し、最後はGK比嘉の頭上を超えるループシュートで得点を重ねる。それでも美東は上間望愛の3連続得点から始まった連続得点で点差を守り切った。

1月の県新人大会優勝、3月の全国中学生選手権大会制覇と結果を残した。比嘉主将は「（選手権の）優勝は自信をつけてくれたが、自分たちはまだ挑戦者」と気を引き締める。決勝で6得点の名嘉は「自信を持ってどんな試合でも強気を持ってプレーしたい」と意気込んだ。（屋嘉部長将）

大勝の神森 攻撃に厚み

全中V見据える

○…「どこからでも誰もが得点できる」ことを意識した男子神森が13点差で仲西を下し、4連覇した。

チーム最高身長180センの親泊寛粋がロングシュートを決め始めると、これへ対応するために仲西がラインを上げた。空いたスペースを狙って、左サイドの照屋拓実やエース・伊禮颯雅主将を中心に得点。選手が複数ポジションをこなし、ベンチメンバーも全員出場。12人が得点に絡んで選手層の厚さも見せた。

守備では仲西エース・金城旭希を複数人でマークしたことで全体の攻撃を抑えた。しかし攻撃後の守備への戻りの遅さから失点する課題も見えた。

春の全国中学生選手権を制し、昨年3位と悔し涙を流した全国中学校体育大会（全中）での頂点を掲げる。親泊は「ロングシュートの精度を高くしていきたい。全中は優勝したい」と意気込んだ。

神森―仲西　前半、守備をかわしてシュートを決める神森の親泊寛粋